



# 移行期農村社会のヒューマンセキュリティ 東北タイ農村部における「土地なし・小農」の生活戦略を中心に

---

慶應義塾大学 大学院  
政策・メディア研究科 後期博士課程1年  
上原和甫

## 研究の目的

---

- 市場経済へ移行する時期の農村部における生活を理解
- 東北タイ農村部において「土地なし・小農」が生活を安定化させる上で、非市場メカニズムがどのように、どの程度まで寄与しているかを検討

## 定義：「土地なし・小農」

---

- 保有農地規模が小さく、また定職を持たないため、日雇労働(ラップ・チャーン)に従事し生計を立てなければならない農村部に居住する人間集団

# 定義：非市場メカニズム

---

- 市場以外の経路を介して資源へとアクセスする営為
- 村内の互助組織や縁戚関係を通じた交換、農村環境からの採取など



# 研究の背景(1)

## 国家経済社会開発計画(1961~)

外貨獲得を目的に換金作物栽培奨励

農村部に貨幣経済が浸透、家計の圧迫

都市部と農村部の格差拡大、農村で階層分化[北原]

## 「農民層下方分解」論(1970頃)

均分相続制度による農地の細分化

零細農や土地なし農民の増加

階層分化、農村相互扶助慣行が消失[渡辺]

## 農地改革法(1975)

土地問題解消を目的として制定

予算不足、地主層の反発、クーデターにより失敗[末廣]

「土地なし・小農」問題は積み残されたまま

## 研究の背景(2)

---

- ヒューマンセキュリティ論の視角
  - 国民経済の成長による恩恵が農村部低収入層に「滴り落ちる」までの期間は？
  - 10年？20年？30年？それとも…

**トリックルダウン効果が期待できない状況の下で生活を維持・向上する必要**

# 問題設定

---

- 農地を失った農民は期待所得の高い都市部へと流出するはずだが・・・
- 多くの土地なし・小農が農村部に留まる

「土地なし・小農」が雇用関係が不安定で貨幣所得の低い農村部に留まり続け、生活を持続させているのは何故か？

## 仮説

---

- 東北タイ農村部における「土地なし・小農」は、制約の下での合理的判断として、「**所得の増加**」以外の方法によって「**生活の安定**」を志向する。彼らは農村環境の変化に対応するかたちで地域に内在する非市場メカニズムを利用し、あるいは新たに形成することによって、市場のみに依存しては十分に得ることのできない生活資源・保険機能を確保しようとするのではないか。

## 調査概要

調査期間	第1回:2004年8～9月(29日間、雨季) 第2回:2005年2～3月(17日間、乾季) 第3回:2005年8～9月(31日間、雨季)
調査対象地	タイ王国東北地方コンケン県 (調査拠点:コンケン大学) ブンチン村(以下BC村) ノンウェンナンバオ・パタナー村(以下NW村) ノンプリ村(以下NP村)
調査手法	インタビュー調査(1人当たり2時間程度)
収集資料	<b>53人の農村住民のインタビュー・データ</b> / 各村の地図、基礎情報(歴史、人口、面積、産業) / 村内互助組織情報(組織名、規模、活動内容、規則など) / 農業・農協銀行コンケン事務所職員へのインタビュー・データ / 統計資料(全国、中部、北部、南部、東部、東北部)の家計調査など全12冊 / BC村の政策文書、NW村がある行政区の政策文書

# 調査対象地



# 対象地の選定理由

---

## ○ なぜタイなのか？

- アジアの奇跡と呼ばれる急激な経済成長を達成した一方で、都市部と農村部の間に大きな格差

## ○ なぜ東北部なのか？

- (1) タイの「最貧地域」であり、自然資源にも乏しい
- (2) 互助組織の活動が活発急激な経済成長と開発政策に

## ○ なぜその3村なのか？

- 共通点・・・(1) 東北部の一般的な規模(1,000人弱)  
(2) 「土地なし・小農」の存在 (3) 互助組織の存在
- 相違点・・・三村は、都市・市場へのアクセス、歴史、農業形態、住民組織形成の点において異なる。

# 事例の分析

---

- (1) 「土地なし・小農」の形成過程
  - 下方分解論の検討
- (2) 資源入手経路
  - 非市場メカニズム
- (3) 非市場メカニズムの機能
  - 互助組織、縁戚関係
- (4) 非市場メカニズムの問題
  - 「排除」、「紛争」

## (1) 「土地なし・小農」の形成過程

---

- 「農民層下方分解」論
  - 「耕地細分化は、東南アジアで一般的な均分相続制によっても促された。…土地を失った自作農は…労働力以外に売るものをもため『土地なし層』へと分解されていく」 [渡辺 2002:179]
- 均分相続制度？  
キョウダイ間で相続農地面積に格差…【例1】
- 「富」の均等配分？  
息子より娘に優先的に土地を分与…【例2】【例3】

## (1) 「土地なし・小農」の形成過程

---

- 「生きるための機能」を均等に配分  
戦略的資源配分の結果、自らを「分解する」
- 相互扶助「慣行」が消失？  
生活を維持するために新たに編成される

## (2) 資源入手経路

---

- 貨幣所得のみに依存しない生活
  - 貨幣所得が高いが生活水準が低い場合【例4】
  - 貨幣所得が低いが生活水準が高い場合【例5】

**貨幣所得以外の資源アクセス方法の重要性**

## (2) 資源入手経路

---

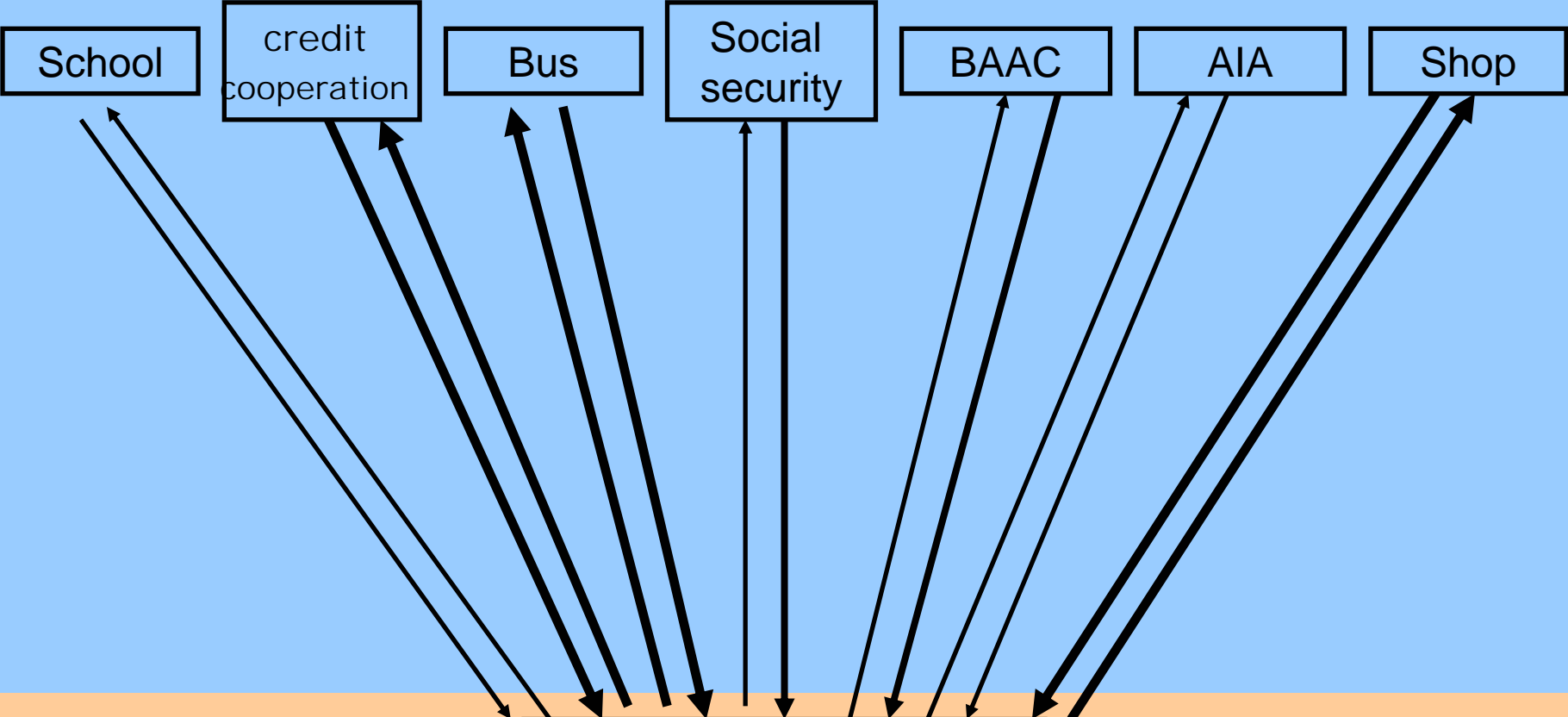
- 生活に内在する不安定性を削減する保険機能をどのように確保しているか
  - 保険市場を利用【例6】
  - 市場と非市場の組み合わせ【例7】【例8】

非市場メカニズムによる保険機能

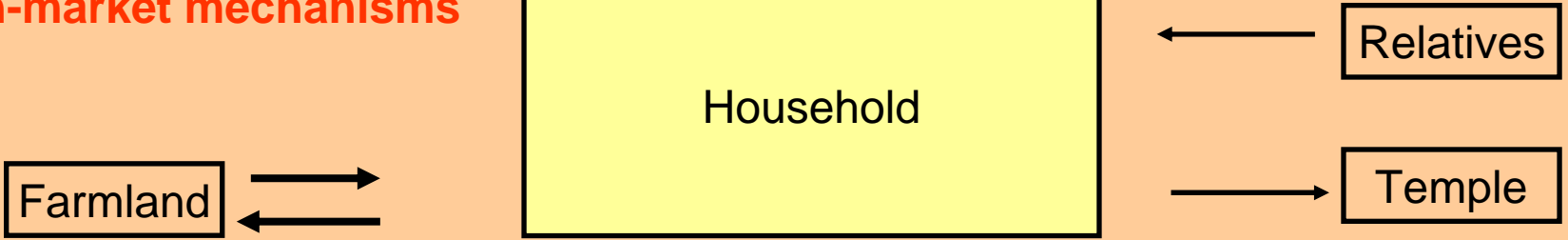
非市場メカニズムによる補完・代替

資源フロー表示図(1): 事例1のAさん

Market mechanisms



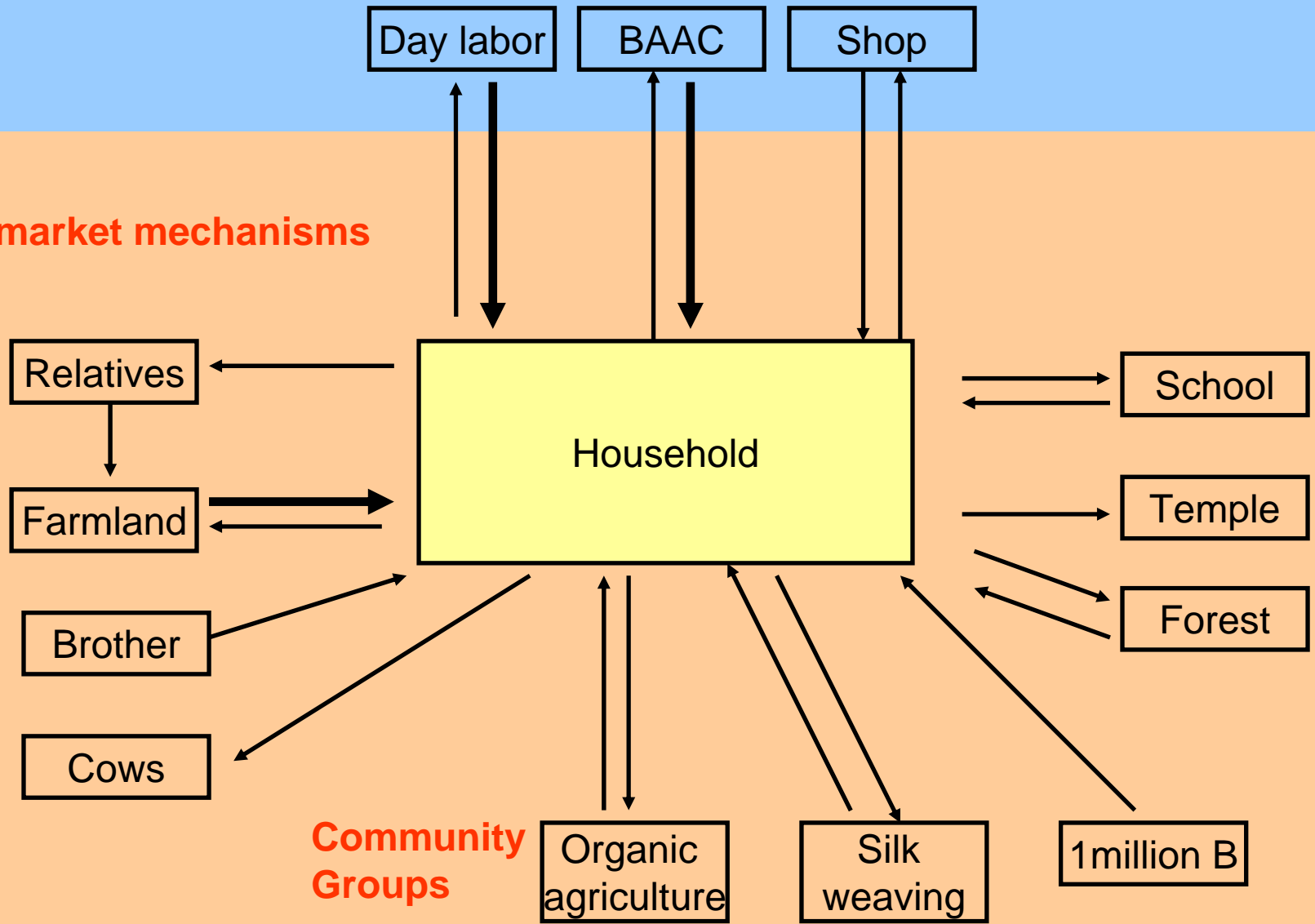
Non-market mechanisms



# 資源フロー表示図(2): 事例2のBさん

## Market mechanisms

## Non-market mechanisms



## (3) 非市場メカニズムの機能

---

- 互助組織
  - 1990年代から形成  
相互扶助「慣行」が消失(古老の証言)
  
  - 互助組織の多様な機能
    - (1) 外部組織の連携
    - (2) 村内組織の連携
    - (3) スケール・メリット
    - (4) 情報交換
    - (5) 食料交換
    - (6) 現金収入獲得機会増加
    - (7) 融資
    - (8) その他
  - … 多くが融資機能を備えている

## (3) 非市場メカニズムの機能

---

### ○ 縁戚関係

#### ● 縁戚関係の機能

- (1) 共同耕作(小作料は分益制・刈分け)
- (2) 食料の供与
- (3) 食料の交換(各世帯で余った作物を交換)
- (4) 貨幣の譲渡
- (5) 融資(無利子・無期限)

セーフティネットとしての縁戚関係

## (4) 非市場メカニズムの問題点

---

- 互助組織からの排除
  - 社会的地位の低い者、社会的ネットワークが希薄な者が参加しにくい
    - 参加できない者【例9】【例10】

参加を必要とする者が排除

## (4) 非市場メカニズムの問題点

---

- 縁戚関係 交換の場、紛争の場
  - 交換の場であると同時に紛争の場
    - 援助し合ってるけどもめてる例【例11】【例12】

問題解決の手段となるが、別の問題を孕んでいる場合も

## まとめ

---

- 生活資源の獲得経路は貨幣所得のみに集約されるわけではなく、互助組織や縁戚関係を通じた資源交換などの手段によって拡散・多様化
- 「所得の極大化」ではなく、非市場メカニズムの形成、利用による資源入手経路の拡大、拡散による生活安定化を志向
- 非市場メカニズムによって達成される「生活の安定」…あくまで括弧付
- 排除や紛争などの問題を抱えている

## 今後

---

- 政治体制・発展段階の異なる地域間の比較を視野に入れ、タイ東北部、比較的市場経化が進行しているタイ北部、そして社会主義体制の影響が大きく残るラオス、ベトナムとの国際比較を考えている。いわば発展の「おくれ」の雁行パターンを追い、研究テーマに幅を持たせると同時に、本研究が扱うテーマが政治体制・発展段階の違いを超えた一般性の高い課題であることを明らかにしていきたい。